

P T A 連 合 会 表 彰 被 表 彰 者

◆表彰 団体

表彰規程 第3条(1)、(2)に該当(組織運営が他の範、P T A 実践活動が顕著)

表 彰	校 園 名		P T A 名 称	会 長 名
会 長 賞	北海道教育大学附属釧路義務教育学校		北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程P T A	松井 聖治
	事例名称	新たな地域イベントを創造する「サンセットフェスティバル」		
	講 評	単にP T Aの事業ではなく、数年かけて地域住民を巻き込んだ事業として評価できる。その運営方法も主体性を育む事業として成立しており、P T A活動の模範となる事業である。		

表 彰	校 園 名		P T A 名 称	会 長 名
優 秀 賞	神戸大学附属特別支援学校		神戸大学附属特別支援学校P T A	濱崎 悦子
	事例名称	「僕とオトウト」上映会と哲学対話		
	講 評	映画上映会に監督にも参加いただき、その映画に対する思いも聞けた良い機会になり、保護者同士の交流もできたことが評価できる。また近隣施設や地域の公立学校の方の参加があり、素晴らしい事業である。		

表 彰	校 園 名		P T A 名 称	会 長 名
優 秀 賞	北海道教育大学附属函館小学校		北海道教育大学附属函館小学校 父母と先生の会	江端 直美
	事例名称	いきいき交流部 研修会『学校ではどこまで教えているの？性教育』		
	講 評	性教育という難しいテーマに取り組み、学校と保護者が連携を取り、事業を開催できている点が素晴らしく、動画を作成し繰り返し視聴できる点が評価できる。		

表 彰	校 園 名		P T A 名 称	会 長 名
優 秀 賞	北海道教育大学附属旭川小学校		北海道教育大学附属旭川小学校P T A	松野 美華
	事例名称	P T A組織のスリム化と附小サポーター制度の活用		
	講 評	P T Aの組織改革が分かりやすく、今の時代に合った参加しやすいP T A活動(サポーター制度)になっている。また削減ではなく効率化や活性化によりスマート化ができている点が評価できる。		

表彰	校 園 名		P T A 名称	会長名
優 秀 賞	上越教育大学附属中学校		上越教育大学附属中学校 P T A	大谷 和弘
	事例名称	iPadを活用した広報誌のデジタル化発行事業		
	講 評	時代に合わせデジタル化され、リアルタイムに多くの情報発信ができている点が素晴らしい。動画も配信され、見たいときに見られる点も高く評価できる。		
表彰	校 園 名		P T A 名称	会長名
優 秀 賞	北海道教育大学附属旭川小学校		北海道教育大学附属 旭川小学校 P T A	松野 美華
	事例名称	職業体験の夏～附小っ子ワイワイ夏祭り～		
	講 評	地元企業や公共の機関と連携して事業を行うことで、地域との繋がりが図れている。継続事業の中で新しい工夫もあり、子どもたちが、楽しみながら体験を通じた成長ができている点が評価できる。		
表彰	校 園 名		P T A 名称	会長名
優 秀 賞	奈良教育大学附属中学校		奈良教育大学附属中学校 育桜会	朝熊 仁司
	事例名称	生徒が使う机の奈良県産材天板への交換作業を P T A 活動で実施		
	講 評	E S D について学ぶ良い機会となっている点が評価できる。発案は学校からであるが、P T A として迅速に対応していて素晴らしい。		
表彰	校 園 名		P T A 名称	会長名
優 秀 賞	山形大学附属幼稚園		山形大学附属幼稚園 P T A	吉田 光伸
	事例名称	幼児期からの性教育		
	講 評	性教育という難しいテーマに取り組んだこと、しかも幼児期に行うことを事前のアンケートをとり十分に準備をして具体的なエピソードを交えて事業できたことが評価できる。		
表彰	校 園 名		P T A 名称	会長名
優 秀 賞	富山大学教育学部附属中学校		富山大学教育学部附属 中学校 P T A	米原 久晴
	事例名称	キャリアデザインキャンプ「14歳のゼミナール&職場訪問、振り返り」		
	講 評	座学による事前学習と実際の職場体験で、とても生徒のためになる事業である。また地域とのネットワークも活かされており、バージョンアップしたプログラムであることも評価できる。		
表彰	校 園 名		P T A 名称	会長名
	埼玉大学教育学部附属中学校		埼玉大学教育学部附属 中学校 父母と教師の会	富井 武敏

優 秀 賞	事例名称	ボランティアの組織化とその活動		
	講 評	保護者が気軽に参加でき、その活動を通して保護者が学校や先生方、また子どもたちと交流が図れていることが評価できる。		
表 彰	校 園 名	P T A 名称		会長名
優 秀 賞	筑波大学附属大塚特別支援学校		筑波大学附属 大塚特別支援学校 P T A	横山 静香
	事例名称	筑波大学附属大塚特別支援学校 交流コンサート		
	講 評	P T A が主体となって子どもたちに良い体験ができたこと、また保護者間のつながりを強固なものにすることができた点が評価できる。本物を体験できた点も良かった。		
表 彰	校 園 名	P T A 名称		会長名
優 秀 賞	上越教育大学附属中学校		上越教育大学附属 中学校 P T A	大谷 和弘
	事例名称	新しい時代に合った P T A の改革		
	講 評	時代に合わせた大幅な組織改革をし、本当に必要な活動に集約できたことが評価できる。改革の結果も記載されており、今後さらに効果があがるだろう、と期待される。		
表 彰	校 園 名	P T A 名称		会長名
優 秀 賞	埼玉大学教育学部附属特別支援学校		埼玉大学教育学部附属 特別支援学校 P T A	由川 真人
	事例名称	コロナ下での親子レクリエーションによる学校・親子の絆づくり		
	講 評	コロナ禍の中、感染防止対策を行うとともに、心配な方のためにハイブリッド開催にした点が評価できる。保護者のかかわり方や教員の参加の仕方から、この事業形態がすばらしいことが伝わる。		
表 彰	校 園 名	P T A 名称		会長名
優 秀 賞	京都教育大学附属幼稚園		京都教育大学附属幼稚園 育友会	内田 麗奈
	事例名称	親子で人権を考えるキッカケ作りとなる「いじめ対策講演会」の実施		
	講 評	いじめに対して子どもと保護者が一緒になって考える機会になっており、また園児にも興味を持ってもらえるような工夫を凝らしている点が評価できる。目的も達成されていて素晴らしい事業である。		

全国国立大学附属学校PTA連合会 令和4年度PTA団体表彰エントリーシート

所属学校名	北海道教育大学附属釧路義務教育学校		
PTA名称	北海道教育大学附属釧路義務教育学校 後期課程PTA	会長名	松井 聖治
事例名称	新たな地域イベントを創造する「サンセットフェスティバル」		

附属釧路義務教育学校では、「リーダーシップ・フォロワーシップの育成」を教育研究として進めています。後期課程においては、具体的な実践として様々な取り組みを保護者や地域を巻き込んで行っております。今回のコロナ禍を逆にとり、3年前より屋外特設ステージでの新たな地域イベント「サンセットフェスティバル in 附中」を実施しています。学校に閉じた学校行事ではなく、PTAの全面協力と地域住民も巻き込んで全員が主催者（リーダー）、全員が参加者（フォロワー）として、学校が核となり新たな地域イベントを創造し、生徒と保護者と共にまちづくりに参画する意識の醸成を育むことをねらいとしています。

3回目の今回は、生徒有志の実行委員会（SUNS）と全生徒、PTA組織、地域のまちおこしに携わる方々にも働きかけて企画・運営を進めてきました。入場ゲートを設置し、PTAの協力を得て、感染防止策のもと広く地域住民も開放し、地域の方も楽しんでもらえるようにフードコーナーを設け3台のキッチンカーに出店いただきました。

イベント盛り上げる工夫としてPTA総務部の保護者を中心にPTAストアを開催。公式グッズタオルの販売や射的、型ぬき、ドリンク販売を開催し、フェスの雰囲気作りに貢献いただきました。生徒有志のSUNSメンバーも着ぐるみショーやパラスポーツ体験会場の設置、SUNS公式グッズを販売するなど、地域の来場者に有意義な場を提供することをねらいに主体的に考え行動する社会勉強の場として進化しています。

フィナーレは、地域住民への感謝の思いを込めた打ち上げ花火にて成功裏に幕を閉じました。今回のPTAストア等の収益は、次年度のサンフェスの打ち上げ花火の資金として全額寄付いただいております。今後はさらに、生徒とPTAによる力やアイデアを生かして参画する新たな地域おこしのイベントとしての発展を目指しています。



左上：「サンフェス」メインステージ

左下：PTAストアでの射的

右上：キッチンカーとPTA協力によるテーブル設置の会場づくり

全国国立大学附属学校PTA連合会 令和4年度PTA団体表彰エントリーシート

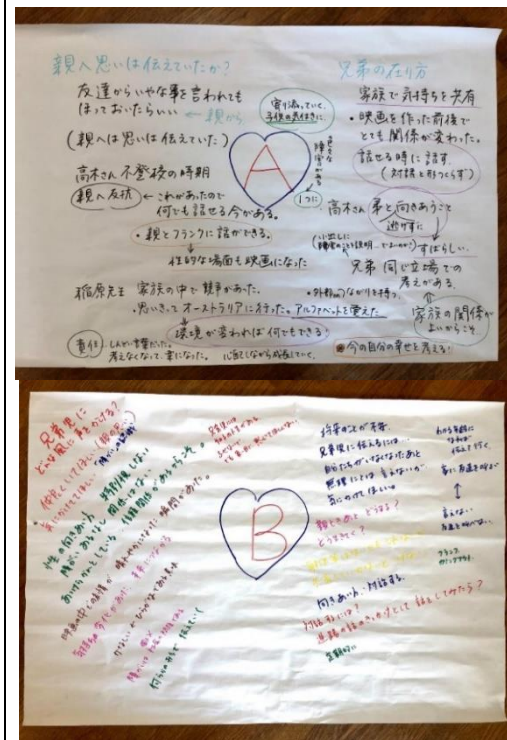
所属学校名	神戸大学附属特別支援学校		
PTA名称	神戸大学附属特別支援学校PTA	会長名	濱崎悦子
事例名称	「僕とオトウト」上映会と哲学対話		

コロナ禍において保護者同士の繋がり、交流の機会が減少してしまっただ。制限がある状況の中で共に学びを深め、交流を図ることができる企画として映画上映会のアイデアが浮上した。特別支援学校なので知的障害の弟をもつ映画監督によるセルフドキュメンタリー「僕とオトウト」の上映会を行い、ゲストとして高木佑透映画監督ご本人と、神戸大学准教授 稲原美苗先生にご登壇いただき、映画製作の背景や障害当事者としての体験をお話して頂いた。鑑賞後にゲスト、保護者、教員が同じテーブルにつき、お互いの心のうちに浮かんできた想い（それは悲しみや不安、喜び、気づき）を出し合う哲学対話を行った。対話の時間において、お互いの考えや思いを最後まで聴く事、否定をしない事、沈黙を尊重されることを大切にして進めていった。なお、開催にあたっては本校の近隣施設、明石市立通園療育センター木の根学園、明石市立明石養護学校の保護者にもアナウンスし、ご参加いただくことができた。

【会場の様子】



【対話中の参加者の気持ち】



- 日程 R4年11月4日
- 場所 本校体育館
- 参加者 本校保護者18名・木の根学園2名・明石養護3名・ゲスト3名・教員2名

「僕とオトウト」の映画を鑑賞した後、高木監督から障害者の「きょうだい児」としての体験、家族の歴史、自ら家族にカメラを向けた理由などをお話いただいた。稲原准教授からはご自身が障害当事者であり、多くの悩みや葛藤、留学した時に感じた解放感は何だったのか、障害者を悩ませるものの正体は何だったのか、などのお話をお聞きした。保護者同士の対話では、将来への尽きない不安、障害があるからこそその喜び、人との繋がり、子どもの行動を前向きに受容できない悩みなど、尽きることなく心のうちを出し合い、想いを言語化することで見えてきた事もあったようだ。誰かの考えや想いを否定することなく、「こんな想いをしている自分がいる」「こんな考えを抱えた自分の隣に受け入れてくれる誰かがいる」ことを感じることもできたそのことが参加者を勇気づけたのではないかと考えている。木の根学園、明石養護学校の保護者も積極的に対話に参加され、学校・園の垣根を超えた交流の機会となった。

全国国立大学附属学校PTA連合会 令和4年度PTA団体表彰エントリーシート

所属学校名	北海道教育大学附属函館小学校		
PTA名称	父母と先生の会	会長名	江端 直美
事例名称	いきいき交流部 研修会『学校ではどこまで教えているの？性教育』		

本校PTA「いきいき交流部」の活動のひとつに、『PTA研修会』があります。これは、外部の方や本校教諭の方に講師をお願いしてテーマに沿った講演会を対面方式で実施してきたものです。しかし、コロナ禍になってからは対面形式での実施が難しくなったため、オンラインでの実施をしてきました。今年度こそは！と対面形式の講演会を検討していましたが、コロナだけでなくインフルエンザも猛威をふるってきているという状況もあり、今年度もオンライン座談会を実施することになりました。

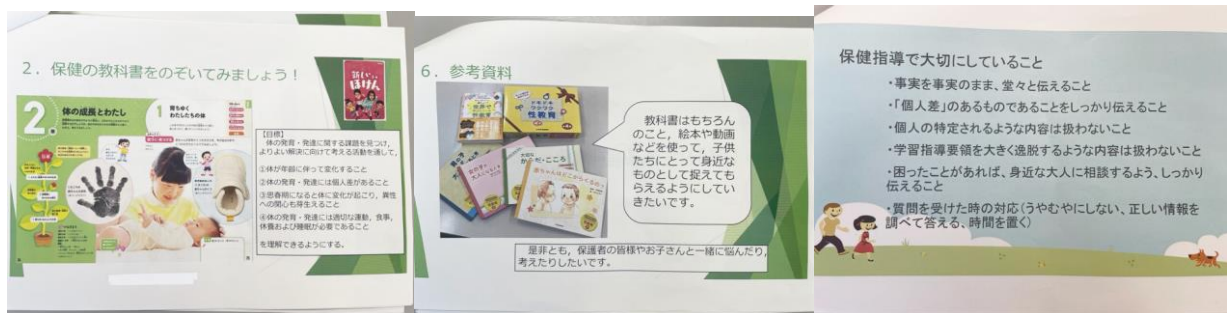
今回のテーマは『学校ではどこまで教えているの？性教育』。毎年、研修会のテーマを決める際に、性教育を取り上げてほしいという意見は必ず保護者から出ていましたが、どこまでをどう取り扱って良いのかの判断がつかず、なかなか踏み込めずにいました。しかし、“学校ではどこまで教えているのか？”という内容であれば、子供たちがどんな学習をし、どこまで理解しているのかを保護者が知ることができると考え、このテーマで実施しました。

実施するにあたり、6年担任教諭（男性）と養護教諭（女性）のお二人に相談し、普段、子供たちにどのような指導をしているか、それぞれの立場での内容を中心にお話をしてもらうことになりました。先生方と何度か打ち合わせをする中で、

- ・自分の子供がどこまで理解しているのかわからない
- ・学校でどこまで教えているのかわからない
- ・ここまで知っている、と把握しておきたい

などの声上がり、同じように思っている保護者が多いこともわかりました。

また、先生からは「ご家庭では子供たちに質問をされたらどう答えるのか」という逆質問もいただきました。その質問への回答から、それぞれの家庭で様々な考え方があることを知りました。そこで、そのやりとりを動画に取り入れ、“こんな考え方もあるんだ。”“我が家と一緒にだ。”など、たくさんの方に共感いただける内容にするため、先生方のお話の合間に保護者（いきいき交流部員）への質問等も盛り込んだ動画（約30分）を作成しました。



現在、小学校段階での性に関する学習では、理科の学習で受精の仕組みを学んだり、保健の学習で二次性徴での体の変化について学んだりしますが、性交についての学習はしないことを知りました。しかしながら、今回、先生方の話を聞いて、子供たちから性についての質問を受けたときの対応や、保健指導で大切にしていることを知ることができました。

今はインターネットやSNSの普及で、どこからでも簡単に情報を得ることはできますが、間違った情報もたくさん混在しています。そのような中でも、この動画を見て、学校で学習する性教育の内容を知り、子供が性について学校で学ぶ内容を保護者が把握することで、保護者の考え方の視野が広がり、家庭での対応の仕方も変わるのではないかと思っています。

そして、きちんと子供に正しい情報を伝えようと思う保護者が増えてくれることを願います。今後も機会があれば、もう少し踏み込んだ内容にも挑戦してみたいです。

全国国立大学附属学校 PAT 連合会 令和4年度 PTA 団体表彰エントリーシート

所属学校名	北海道教育大学附属旭川小学校		
PTA名称	北海道教育大学附属旭川小学校 PTA	会長名	松野 美華
事例名称	PTA組織のスリム化と附小サポーター制度の活用		

附属旭川小学校PTAでは、現状における保護者の方々の就労率の高さに鑑みて、少しでも負担を少なくし、効率的に組織を運営していくことを目指し、このコロナ禍をチャンスと捉えて大胆な組織改革を実践しました。

主な改革の柱は次の3点です。

- ①会長1名、副会長6名、会計2名、監査2名の計10名をPTA四役とする。
- ②各委員会、委員長制度は廃止とし、PTA四役にその役割を移す。
- ③学級委員の定員を各学級3名から2名とする。

これまで、PTA年間行事等の主な活動は、研修委員会、厚生委員会、給食委員会などの各委員会が委員長を中心として計画し実践していました。しかし、委員になっていただく人のお願いや、会議の参加機会の多さなど、負担とを感じる人が増えていました。

そんな中、コロナ禍でPTAの活動を進める際、委員会を招集することが困難であったためPTA四役のみで活動を進める機会が多くなりましたが、活動を進めることが可能であると分かりました。

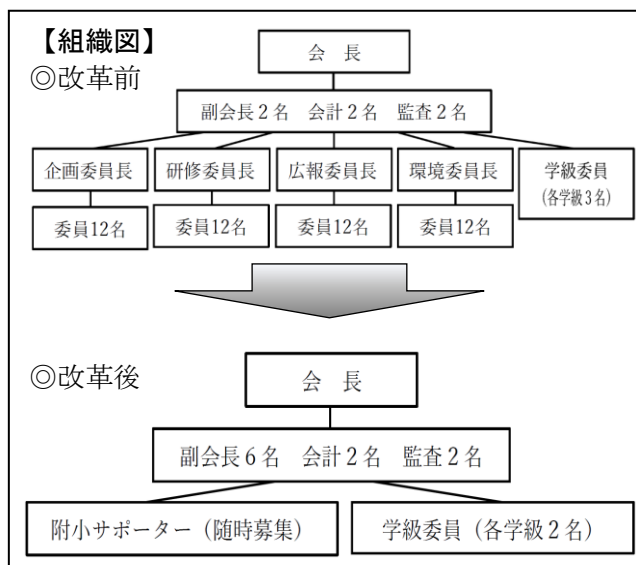
そこで、思い切ってこの委員会自体を廃止し、すべての活動を四役ベースで計画していくこととしました。同時に、学級委員の定員も2名に減員し、全体として組織をスリム化しました。

一方で、運営以外の全ての業務をPTA四役だけで行うことは物理的に困難ですので、保護者が都合に合わせて参加できる「附小サポーター制度」を設けることとしました。

この制度は、活動毎に参加者を募って活動する制度で、保護者であればどなたでも気軽に参加できる仕組みとしました。スマホアプリのLINEを活用し、保護者が興味のあること、協力可能なことについて附小サポーターとして登録していただきます。PTA四役は活動を計画し、保護者の協力をお願いしたいときに、その都度、LINEで情報を発信し、参加者を募ります。

このサポーター制度の良いところは、年間を通しての縛りのある委員会などには参加はできないけれども、手が空いたときに手伝いをしたいという保護者が参加しやすくなったということです。また、運営する上でも、人を集めたいときに動的に募集でき、とても有り難い方式です。また、参加した方からは、「参加できるときを選んで参加できるため、協力しやすい」「他学年の保護者と話ができて、参加してよかった」などの声を聞くことができ、仕事で多忙だけれどもPTA活動には参加してみたいという保護者の気持ちを反映できるウィンウィンな仕組みとなりました。

このように、組織改革を進めることで、保護者の参加しやすさと機動的な組織運営を両立できる仕組みが整ってきました。今後も、「今の時代に合った参加しやすさ」を大切に、組織運営を進めていきます。



全国国立大学附属学校PTA連合会 令和4年度PTA団体表彰エントリーシート

所属学校名	上越教育大学附属中学校		
PTA名称	上越教育大学附属中学校 PTA	会長名	大谷和弘
事例名称	iPad を利用した広報誌のデジタル化発行事業		

【目的】

当校では長い歴史がある PTA 広報誌「きささげ」があるが、以前よりその作成方法や発行にかかる予算に関して問題があり、それを解決し PTA の広報誌の新しい形を模索するため全ての工法をデジタル化し配信するという取り組みを行った。

【課題と改善】

(広報紙の発行頻度) 年 2 回の発行 (情報がリアルタイムではなくすでに興味関心が失われた事業の内容が記事として掲載→デジタル化し iPad で配信

(作成方法) 広報委員会が夜学校に集まり 30 人近くで作成→広報委員 (ボランティア) が学校等で取材後、サークル活動のようにカフェ等で集まり和気あいあいと作成・デジタル配信という形をとることで紙面では不可能だった動画の埋め込みなど行う

(予算) 年 2 回発行の印刷物のため大きな予算がついていた→今年度その予算で iPad を購入し全てデジタル配信したことによって次年度より大幅に予算を削減できる予定

【結果】

(広報誌の発行頻度) 年 2 回→15 回 リアルタイムに保護者の興味のある事業について配信出来た

(アンケート結果)

《閲覧の頻度について》

毎回見た 44.4% よく見た 20.8% 何度か見た 23.6% ほとんど見てない 11.1%

《内容について》

興味を持てた 87.5% 興味を持てなかった 12.5%

《配信回数について》

ちょうど良い 88.9% 多かった 5.6% 少なかった 5.6%

《興味を持った記事》

部活動・子どもの授業風景・校外学習の様子・合唱祭・体育祭など

《感想》

- いつでもどこでもスマホで見れて良かった
- 動画配信が面白く臨場感があった
- 写真が多くわかりやすかった

【まとめ】

広報紙のデジタル化への転換は概ね予定通りにいった。委員のメンバーの工夫で動画の埋め込み等新しい試みが保護者には好評だった。次年度以降は、生徒会広報委員会とのコラボや、ファイル共有機能を使ったりリモートでの記事作成など取り組みを加速させ、より良いものにしていけると感じた。



全国国立大学附属学校 PAT 連合会 令和4年度 PTA 団体表彰エントリーシート

所属学校名	北海道教育大学附属旭川小学校		
P T A 名称	北海道教育大学附属旭川小学校 PTA	会長名	松野 美華
事例名称	職業体験の夏～附小っ子ワイワイ夏祭り～		

夏休み明けの最初の日曜日、附属旭川小学校PTAが長年にわたって活動を続けている「附小っ子ワイワイ夏祭り（以下「ワイワイ祭り）」があります。このワイワイ祭りは、長い休み明けの子供たちが、お祭りを通して友達や学校とふれあい、2学期の学校生活にスムーズに移行できるようにとの願いから始めました。「祭り」の名が表すように、縁日や出店、手品、児童による合唱やよさこいソーランなど、わいわい楽しめるお祭りとして実施するPTAの一大行事でした。それが、3年前の新型コロナウイルス感染拡大のため2年間中止となり、再開の目処がたたないまま今年度を迎えようとしておりました。

PTA役員の代替わりで、新規メンバーになって臨んだ今年度のPTA活動では、ワイワイ祭りを一層「附小らしい行事」とするため、前年度の会長以下の役員が計画し準備を進めていた取組をさらに充実させ、「職業体験の夏」と銘打ち、内容を大きく変えました。

「コロナ禍でも子供たちに様々な職業に触れる機会を提供する」ことを大きな目的とし、児童が地域にある職業を知り、体験できるよう構成しました。PTA役員の地の利を生かし、地元の企業や公共の機関などに「職業体験の夏」の趣旨を説明し、賛同していただいた企業にご協力をいただくことで多数のブースを設定することができました。

コロナ禍でも安全に実施できるよう、グラウンドと前庭、体育館を会場とし、各ブースでは、次のような職業体験を子供たちにしてもらうことができました。

- ・自衛隊服のレプリカ着用、特殊車両やオートバイへの乗車
- ・警察パトカーの運転席乗車、赤色灯やサイレンのボタンを間近に見る体験
- ・消防署の放水車を使用した消防士による放水の実演、消防士と一緒に放水体験
- ・旭川空港職員による動画を使った説明や歴代の航空機模型の鑑賞
- ・JR北海道による模擬切符作成体験
- ・企業による業務用大型ドローンの飛行実演
- ・化粧品体験やネイリスト体験
- ・ペンキ屋さんの協力によるペンキアート作り
- ・大工さんの協力によるプロの道具使用体験
- ・建築造形師の協力によるペーパークラフト作り
- ・スポーツインストラクターによるストラックアウトコーナー



この、地域と一体となった活動で見ることができた子供たちの笑顔は、マスク越しでもそれが分かり、本当に心から開催してよかったと思った瞬間でした。

同時に、準備等を通して、なかなか繋がりをもてなかった学級委員にも活動に参加していただくことができ、皆で汗を流せたことは、本当によい体験となりました。

ワイワイ祭りがつくり出した「職業体験の夏」は、子供と保護者と学校と地元企業の距離を近いものとし、皆が充実感を共有できるものとなりました。今後もPTAの保護者の力を借りながら様々な職業を巻き込み、さらに進化していくものと確信しております。



学校の向かいにある自衛隊の特殊車両に乗車体験



プロのメイクでお化粧品体験



旭川空港出働く人の仕事をビデオでお勉強

全国国立大学附属学校PTA連合会 令和4年度PTA団体表彰エントリーシート

所属学校名	奈良教育大学附属中学校		
PTA名称	奈良教育大学附属中学校育桜会	会長名	朝熊仁司
事例名称	生徒が使う机の奈良県産材天板への交換作業をPTA活動で実施		

先生方から、生徒が使う机の天板の交換をすべき時期にあり、下記のような状況・予測される効果があるということで、PTA活動での協力ができないかどうかについて打診をいただきました。

～天板を交換すべき状況・予測される効果～

- ① 従来の机は旧JIS規格であったが、新JIS規格へと変更すべき状況であった。また、GIGAスクール構想に基づき、GIGA端末の活用が広がり、教科書とGIGA端末の両方が机に乗ることが望ましいため、天板を交換する必要性が高まっていた。
- ② 奈良教育大学は附属学校園も含めてユネスコスクールの認定を受けており、附属中学校にはユネスコクラブの活動もあるが、奈良県の林業を学ぶため、県南部の黒滝村を訪問し持続可能な林業について学んでいた。その中で、奈良県の林業を持続可能化するには、もっと奈良県産材を活用することが必要だと気が付いた。（植林した木は、定期的に伐採しないと森林が荒廃し土砂災害につながるため、随時利用することが重要という側面もある。）このため、机の天板として利用できないかどうか、県内の製材会社に相談し、長期間の利用に耐えうる強度に加工できることを確認できた。
- ③ ESDの視点から、脚部については従来使用していた物を再利用し、天板の交換については、保護者を中心に生徒も参加できる体制で実施できないか。
- ④ 生徒たちが山林から自分たちの手元に来るまでの過程を学び、ESD的な学びを進めることができる。
- ⑤ 無垢の木を使うことで、生徒のメンタル面にも良い影響があると考えられる。
- ⑥ 奈良県産の木に親しむことで、今後の生活でも生徒や保護者が奈良県産材を活用する場面が増えることが期待できる。

先生方のお考えに賛同するとともに、長らく限定的になっていたPTA活動としても、ありがたい申し出であると感じましたので、協力をさせていただくことにしました。PTA会員に参加を呼び掛けたところ、先生や生徒の参加も含めて60名もの参加がありました。全員で一緒になって交換作業を行い、予想よりも相当短時間で生徒が使う机の天板を交換することができました。PTA活動がESDに直結し、保護者にとっても学びの機会になりました。

保護者からは、「なかなか学校に来る機会がなかったが、自分の子供のためになる取り組みに参加できて嬉しい。」「今後も何か力になれることがあれば参加したい。」などの声が聞かれました。生徒からは「天板が大きくなり使いやすい。」「きれいになり嬉しい。」などの声が聞かれました。



全国国立大学附属学校PTA連合会 令和4年度PTA団体表彰エントリーシート

所属学校名	山形大学附属幼稚園		
PTA名称	山形大学附属幼稚園PTA	会長名	吉田 光伸
事例名称	幼児期からの性教育		

本園PTAでは、保護者のコミュニケーションと体験や学びの場を大切に、毎年「ふよりの集い」を開催しています。

近年、男女共同参画や女性活躍推進法の改正、LGBTやSDGsなど、性別や性への関心が高まっています。本園では、これまで男女で分かれていた出席番号や園服の色などが徐々に統一され、ジェンダー平等が進んでいるところです。

このような中で、ふと身近なところに目を寄せてみると「僕はどこから生まれてきたの?」「どうして私にはおちんちんが無いの?」など、子どもからの無邪気な質問に「何と答えたらいいかわからない」「果たしてこの答えで良いのだろうか?」という、幼児期の子どもを持つ保護者ならではの疑問があるのではないかという意見があがり、令和4年度は、「幼児期からの性教育」についてセミナーを開催しました。

本園の養護教諭と共に、附属学校ならではのネットワークを活かした講師選定を行い、元養護教諭であり現在は「人間と性」教育研究協議会山形サークルの事務局長をされている高山みつる先生に講師をお願いしました。

コロナ禍ですが、保護者が集い悩みを直接共有し合える場を設けたいと、感染症予防対策をしっかりと行いつつ、密にならないよう一回の参加人数に制限を設けて、二回に分けて行う参集型としました。

セミナーでは、家で実践できるよう、普段子どもとのかかわりの中で生まれた「性に関する悩み」や「困った時のエピソード」などの事前アンケートを取り、それに対する答えを中心に具体的なエピソードを交えてお話していただきました。

セミナー終了後のアンケートでは、「性についてプラスのイメージを小さいうちからもたせる事が大切だとわかった」「具体的でわかりやすかった」「できることから家で実践したい」「子どもの命だけでなく、自分の命も大事に育まれてきた大切な命だとわかった」「夫も参加すればよかった」など、たくさんのご意見をいただきました。また、高山先生が紹介された本は、幼稚園で購入していただき、子どもと保護者が気軽に読めるようにしました。

センシティブな内容のため、なかなか人には聞けない疑問や悩みについて直接講師の先生にお聞きして質問にお答えいただく機会を設けられたことは、幼児期の子どもを持つ保護者にとって、とても有意義な時間であったと思います。今後も、子どもにかかわる人たちのニーズを把握し、それに応えるような活動を目指していきたいと思ひます。



全国国立大学附属学校PTA連合会 令和4年度PTA団体表彰エントリーシート

所属学校名	富山大学教育学部 附属中学校		
PTA名称	富山大学教育学部 附属中学校PTA	会長名	米原 久晴
事例名称	キャリアデザインキャンプ「14歳のゼミナール&職場訪問、振り返り」		

本事業は、“第14回キャリア教育優良教育委員会 学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰・団体の部”で表彰された「14歳のゼミナール」に磨きをかけたものです。

本年度は、生徒たちの職業観を養う機会だけに留めることなく、職業的自立に向けたキャリア発達を促す教育を目的に追加し、昨年度実施した事業を振り返りながら学校と協議し、「14歳のゼミナール」に「職場訪問」と「振り返り」を加えたことから、事業名称も「キャリアデザインキャンプ」としました。

キャリアデザインキャンプの内容は、①座学で職業観を養う ②実際に職場を自分の目で確かめる ③2日間を振り返る という3日間での構成となっており、首尾よく生徒たちの学びを深めることができたのではないかと考えています。

特筆すべき点としては、事業の準備を進めていくうえで、PTAが持つ強力なネットワークから紹介された(一社)富山県機電工業会主催の「富山県中学生ものづくり教育振興会」の支援を受けることができたことで、運営がスムーズになると同時に費用的な負担軽減にも繋がりました。またコロナ感染予防対策の影響で行動制限の多い状況でしたが、天候に恵まれたことから、昼食時間に屋外でお弁当を食べたことが、生徒たちにとって楽しく学べる貴重な機会となりました。

【1日目】：座学（ゼミナール）

PTA、OB・OG、大学、地域、行政などから10講座の講師を担当

【2日目】：職場訪問

県内企業：富山県の基幹産業 ものづくり系6社

※(一社)富山県機電工業会主催「富山県中学生ものづくり教育振興会」対象企業は2社

【3日目】：振り返り

学校主催の授業



【ゼミナール】



【職場訪問】



【職場訪問】

【地元紙記事】



【ランチタイム】



【ランチタイム】



【地元紙記事】

全国国立大学附属学校PTA連合会 令和4年度PTA団体表彰エントリーシート

所属学校名	埼玉大学教育学部附属中学校		
PTA名称	父母と教師の会	会長名	富井 武敏
事例名称	ボランティアの組織化とその活動		
<p>令和3年度において、生徒達のためになり、かつ保護者が気軽に参加できる活動として、学校内ボランティア清掃活動が始動し、年間2回の活動を行った。令和4年度となり、ボランティア活動の種類も増えたことから、都度とりまとめ係を担う「ボランティア班」を希望・登録制で組織化した。「無理のない範囲で出来る事を楽しく」を基本とし、メンバーには自身の都合にあわせて無理の無い範囲で参加していただくこととした。</p> <p>活動としては、①校内清掃活動、②制服リユース、③読書会補助、④その他イベント支援が挙げられる。共通して、活動案内を保護者全員へのメール配信とし、参加希望をネット上のフォームにて募った。ボランティア班メンバーが、参加者への諸連絡・学校との調整・当日の準備を担う形となった。</p> <p>①校内清掃活動 事前に清掃範囲の班分けを行い、持参すべき道具等の調整ができたため、当日は効率よく作業を行うことができた。気温が高かった日の活動では、相互に給水と呼びかけつつ空調を効かせた室内での休憩も確保した。事前に参加者名簿を学校に提出していたため、保険への加入も可能であった。中庭の池の清掃も活動に含まれており、池の水の浄化槽の更新も行った。日よけを増設したり、蛎殻を沈めたりと科学研究の側面もあり、「大人の自由研究」(写真)として楽しむこともできた。</p> <p>②制服リユース 中学生の成長の速さは想像を超えており、時に制服が思いのほか小さくなってしまふのは、共通の悩みであることから、制服等のリユースを行った。不要となった制服・体操着・柔道着・ワイシャツなどを寄付していただき、ボランティア活動としてこれらの整理・リスト化を行い、授業参観で多くの保護者が来校する日に希望者に提供できるようにした。寄付で集まった物品のほとんどがリユースされることとなり、今後の継続を希望する声が多数あった。</p> <p>③読書会補助 校長主催で保護者対象の読書会が3回ほど実施された。相互に本について語る中で保護者同士の交流が促進された。この企画の前後で、ボランティア班メンバーが連絡係をつとめ、当日の会場設営・進行等を行った。</p> <p>④イベント支援 「思春期の心への寄り添い方」をテーマにスクールカウンセラーによる勉強会(写真)が実施された。あらかじめ悩み事をケースとして収集し、共通する内容を話題にいただいた。共通の悩みを持つ保護者同士の交流もでき、反響は大きく来年度以降の開催を希望する意見が多数寄せられた。参加受付・ケースの収集と調整・当日の準備等はボランティア班のメンバーが担った。</p> <p>依然コロナ禍にあって保護者が中学校へ足を運ぶ機会が限られている中で、これらの活動を通して、多くの保護者が無理の無い範囲で中学校へ足を運び、子供と同じ空気を吸う・教員と会話をする・保護者同士の交流をはかることができた。清掃活動の結果きれいになった環境を子供達が喜ぶというだけでなく、子供と保護者の間の共通の話題が増えてこれまでとは違った家庭時間を過ごしたという声も寄せられている。令和4年度末には、校庭周辺部分の芝生化が計画されており、芝生保全活動もボランティア班による運営となる予定である。</p>			



全国国立大学附属学校PTA連合会 令和4年度PTA団体表彰エントリーシート

所属学校名	筑波大学附属大塚特別支援学校		
PTA名称	筑波大学附属大塚特別支援学校PTA	会長名	横山 静香
事例名称	筑波大学附属大塚特別支援学校 交流コンサート		

開催日時 令和4年10月24日(月) 14時～

開催場所 筑波大学附属大塚特別支援学校体育館

参加者数 59名(うち参加した在籍児童・生徒数28名)

- 開催内容
- ①「ハイドン 四重奏曲 作品76-1」
バイオリン2挺、ヴィオラ、チェロによる弦楽四重奏
 - ②「ブラームス 五重奏曲 作品115」
①にクラリネットを加えてのクラリネット五重奏

デジタル音源では決して味わえない、音楽家による立体的な生演奏を、気負いなくクッションマットや椅子に座ったり立ったりしたままのフリースタイルで、臨場感とともに体験して欲しい、そんな思いを込めて交流コンサートを開催しました。

当日はハンドベル工作キットの提供も行いました。

本事業は、筑波大学附属大塚特別支援学校PTAのメンバーが主体となって企画し、関係者の多大な協力により実現に至ったものです。

学校による企画開催の優れた行事はもちろんありますが、長く続くコロナ禍の厳しい状況下で全ての分野を学校が網羅しきれるものではありません。本格的な音楽演奏に触れることによる社会教育的効果を実感できたこと、そして一緒に参加することで学校や親子、保護者関係の絆づくりに貢献できたことは、コロナ禍で希薄になりがちな横の繋がりを強固にするものとなりました。また、塞ぎがちになりやすい子どもや大人の気持ちを優しく包み込み、穏やかな時を過ごす機会にもなりました。

今回の事業をPTA主体により実現することで、学校全体を応援し補完できたことに大きな意義を感じています。

開催時の様子(写真)



全国国立大学附属学校PTA連合会 令和4年度PTA団体表彰エントリーシート

所属学校名	上越教育大学附属中学校		
PTA名称	上越教育大学附属中学校PTA	会長名	大谷和弘
事例名称	新しい時代に合ったPTAの改革		

【目的】

当校では2022年度よりPTAの大幅な組織変更を伴う改革を実施した。PTAが誕生してから半世紀がたち少子化で生徒数が減り学校を取り巻く環境が変わっていく中でPTAの存在意義が問われる昨今の情勢をふまえPTAという組織を見直し、真に生徒のために何ができるかを考え実行する団体に昇華するためにPTA改革を実施した。

【実施内容】

今までの事業と組織を「生徒のためになっているか」という観点から全て見直し、再構築をした。

(PTA活動) ほぼすべての活動が前年と同じことを引き継いで行う活動→①設置委員会が変わるため引継を行わず事業構築の方法が変わった②学校で行うべき事業とPTAが行うべき事業を明確に分けて企画実施した③各事業の参加は全て希望制のボランティアとした④学年委員会では希望がなければ事業を実施しなくて良いことにした

(専門委員会) 各学年委員会・専門委員会は設置義務があり設置によって行われる事業が決まっていた→設置委員会の縛りを廃し、全ての委員会を役員会の権限で設置するようになった

(役員選出) 各クラスから委員会所属の役員を3名ずつ選出(3年に1度役員を受けるという暗黙のノルマが存在)→各クラスからの選出を止め立候補による選出と、ノルマ制の明確な完全廃止

(役員数) 生徒定員315名に対し役員が約90名→上記役員選出方法の変更により、役員を10名に削減

【改革の結果】

(環境整備委員会) 環境整備活動を完全ボランティア制とし2回の実施で延べ200名を超える保護者の参加があった

(広報ICT委員会)

広報紙の発行を全てiPadによるデジタル配信とし保護者にリアルタイムで配信した。動画もあり学校での生徒の様子がよくわかると非常に好評だった。また、広報誌にかかる予算を大幅に削減できた。

(キャリア教育委員会)

キャリア教育のため卒業生を中心としたOBの講話をブース形式で聴講できる事業を実施し100名以上の保護者の参加があった

【まとめ】

今までの委員会があるから役員を選出し、前年引継の事業を行うという形から子供にとって本当に必要な事業を行う形に大転換したが概ね保護者からの評価も高く、次年度にも継続できる形となった。今年度でわかった問題点を次年度以降改善していけば活発でより良いPTA活動になっていくと考える。

全国国立大学附属学校PTA連合会 令和4年度PTA団体表彰エントリーシート

所属学校名	埼玉大学教育学部附属特別支援学校		
PTA名称	埼玉大学教育学部附属特別支援学校PTA	会長名	由川 真人
事例名称	コロナ下での親子レクリエーションによる学校・親子の絆づくり		

本校ではPTA主催で夏と冬の年2回、親子レクリエーションを開催している。コロナ感染拡大を考慮して昨年度からオンラインで開催しており、今年度も夏の親子レクは引き続きオンラインで開催した。しかし、やはり皆が同じ場所に集いイベントを開催したいという声が強くなり、コロナ感染に十分に配慮しながら、冬の親子レクはハイブリッド（学校でのオフライン参加＋各家庭からのオンライン参加）という形で開催した。

冬の親子レクは、ゲーム、バンド演奏、花束贈呈等、たくさんの企画で大変盛り上がり、子ども達のたくさんの笑顔を見ることが出来た。特にバンド演奏は保護者によるバンドだけでなく、教員有志によるバンドも結成され、大いに盛り上がった。子ども達の笑顔を中心に、保護者、先生も含めた学校全体の絆を改めて感じる事が出来るレクリエーションとなった。以下にその冬の親子レクの内容を示す。

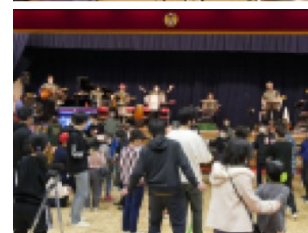
ハッピーくんを探せ(シール集め) ゲーム

本校のマスコットキャラクターである「ハッピーくん」のシールを3枚集めるゲーム。密にならないよう、小学部・中学部・高等部でまわるコースやスタート時間を変える工夫をした。校内を歩きまわって、子ども達は一生懸命シールを探し、友達や、一緒に参加した兄弟姉妹とも力を合わせ、シールを集めることができた。集めたシールは豪華景品と交換し、大いに盛り上がった。また、オンライン参加者には事前にシールや景品を配布しておいて、当日、自宅でシールを探してもらい、同じようにゲームができるよう工夫を凝らした。



しいのきバンド (保護者)

「おやじの会」の有志で結成された「しいのきバンド」。この日の為に数か月前から練習を重ね、父親達の本気が伝わってくる演奏に子ども達は総立ち。選曲も子どもだけでなく保護者も楽しめるよう考えられていた。演奏後には「アンコール！アンコール！」の声が鳴りやまず、子ども達はもちろん、保護者も含め皆が楽しいひと時を過ごすことができた。Zoom 配信で、オンライン参加者も自宅で同じように楽しむことが出来た。



ハッピーバンド (先生)

教員有志によるバンド。いつもの先生達と違う姿に子ども達は興味津々。歌あり、踊りあり、手話ありの演奏で、踊りや手話は学校で教わったこともあり参加しやすく、子ども達も保護者も大いに盛り上がった。



埼玉大の中心で愛を叫ぶ！

日頃お世話になっているお母さんに感謝の気持ちを込めて、子どもから、お父さんから花束が渡された。優しい気持ちに包まれる素敵な企画であった。

以上

全国国立大学附属学校PTA連合会 令和4年度PTA団体表彰エントリーシート

所属学校名	京都教育大学附属幼稚園		
PTA名称	京都教育大学附属幼稚園育友会	会長名	内田 麗奈
事例名称	親子で人権を考えるキッカケ作りとなる「いじめ対策講演会」の実施		

【背景】

昨今、全国各地でいじめの重大事案が発生するなど、国立大学附属学校においてもいじめ防止対策ならびにいじめ対策問題は重要な課題です。本園では、育友会で「いじめ対策講演会」を企画するなど同様の課題認識を持って活動を続けてきています。今年度は、新型コロナウイルス感染症に対する園の対応も変化し、感染対策を伴いながらも参加型の活動が出来るようになってきました。昨年はオンライン視聴開催とした講演会を、今年は親子で参加する体験教育型のイベントへ昇華させることに取り組みました。

【目的】

保護者（育友会員）に人権問題を啓発するとともに、園児が保護者と共に参加することで、親子で人権を考えるキッカケを作ることを目的にしました。

【企画内容】

「いじめ対策講演会」を二部構成で開催しました。第一部は保護者向けに、京都地方検察庁人権擁護課に所属する人権擁護委員の方から講演を頂き、第二部は親子で絵本の読み聞かせを聞く会にしました。

◆第一部◆

人権擁護委員の方より、第二部で読み聞かせる絵本『てん(The dot)』についてご紹介頂くとともに、人権に関するお話を全保護者（育友会員）向けにして頂きました。

◆第二部◆

年長組の園児と保護者向けに一部と同様の絵本の読み聞かせを行いました。また、人権擁護の普及キャラクターと触れ合う場を設け、人権擁護活動の案内を行いました。

年少、年中組の園児と保護者向けには第二部の模様を動画配信し、オンライン視聴形式にしました。

【アンケート結果（一部、コメントご紹介）】

第二部の体験型は年長組に限定し、年少と年中組にはオンライン配信としましたが、半数以上の方が親子で視聴頂くなどご好評頂きました。イベントを通じて理解が得られた、或いは考えさせられただけでなく、自身の行動にうつすような積極的な回答も多数頂きました。人権擁護活動を改めて認知したとのコメントも寄せられました。

・人として大事なことのひとつとして、常に相手の気持ちを慮る想像力を持つことを子どもに伝えたい

・決めつけをせず、子どもがどういう気持ちだったのかをしっかりと受け止めたい

【振り返りと今後について】

テーマを絞り、親子で考えるキッカケを作ることで、保護者と園児の双方が人権を考えて行動する好循環が出来ました。子ども達もキャラクター（人権まもるくん）の来園に大喜びでした。親子で楽しみながらもしっかりと考える雰囲気大切に、今後も継続していきます。

◆第一部◆



◆第二部◆

